
アキタラクティブ アイ

Akitaractive Eye

～主体的・対話的で
深い学びのために～

技術・家庭編（技術分野）

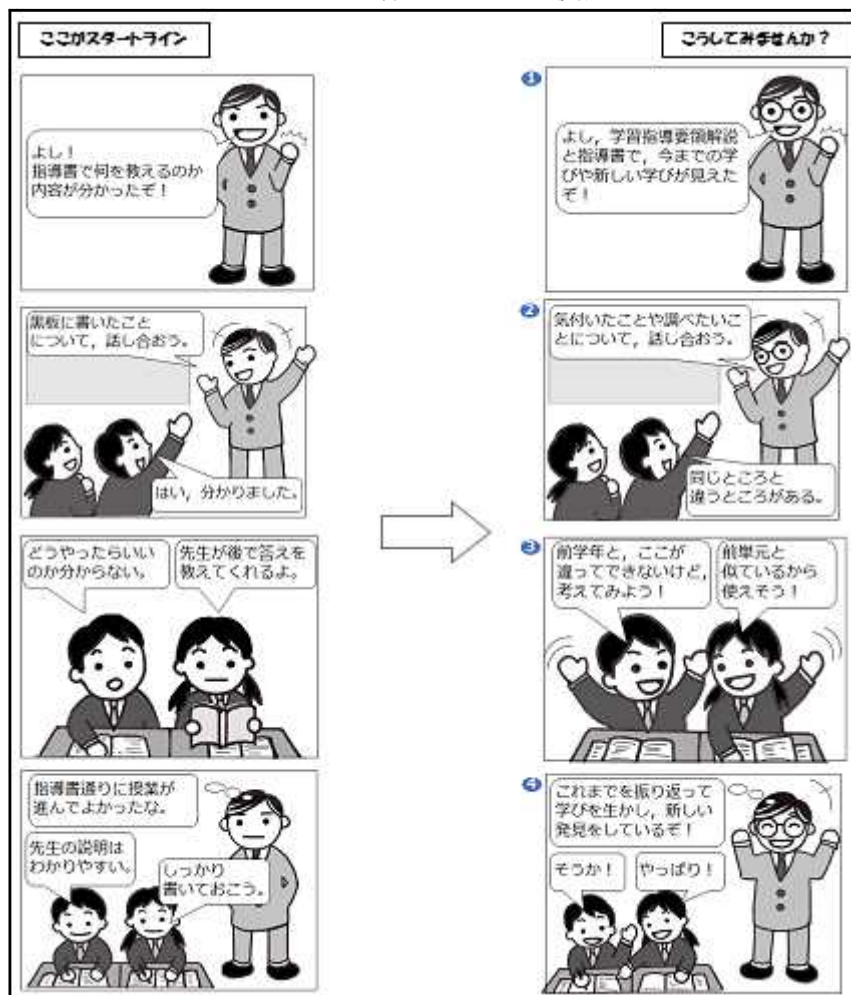
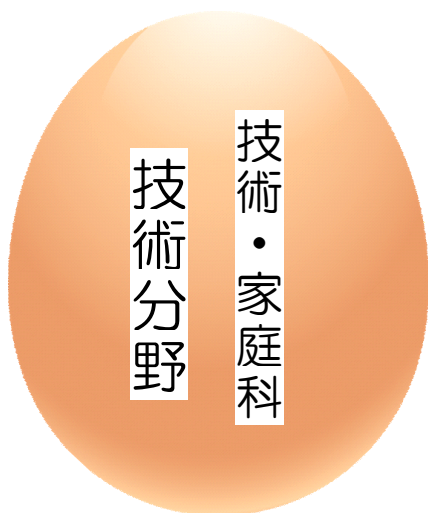


秋田県総合教育センター

2019.10.10

これまでの学びを振り返り，学びの中での気づきを
手掛かりに新たな学びが始まる。

<授業のイメージ漫画>



キーワード

技術分野の学習過程

1 わくわく授業をするために

◇資質・能力を焦点化する

・「技術分野 資質・能力系統表」（中学校学習指導要領解説技術・家庭編 P 60）を確認しましょう。

↓

・履修学年や授業時数等に応じて、各内容項目ごとに育成する資質・能力を具体的に設定します。

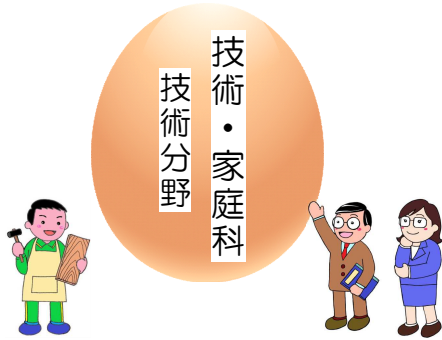
↓

・設定した資質・能力を基に、各題材の目標を設定します。

◇入念な教材研究をする

- ・小学校の教科の指導内容や中学校の他教科等との関連を把握します。
- ・生活との関わりや社会とのつながりを重視し、子どもの興味・関心を高める題材を設定します。
- ・履修学年に応じて、学習課題の難易度を変えます。

例えば、内容Aの設計、製作を第1学年で扱う場合と第2学年で扱う場合では、課題設定の方法、使用する材料の種類や大きさ、製作時間等を変えることが考えられます。



2

3

学びをつなげるために

◇教科等の特質を踏まえる

- ・技術分野の学習過程（中学校学習指導要領解説技術・家庭編P23）を経ることで、効果的に資質・能力を育成することができます。
- ・技術分野の特質は、「ものづくり」などの実習や観察・実験、調査等を通して学習することです。「ものづくり」では、科学的な知識等を踏まえて設計・計画し、身体的な技能等を用いて製作・制作・育成を行います。

例えば、木製品の製作は、作ることだけが目的ではありません。条件に応じた設計、最適な材料、構造、製作過程、加工技術等を学ぶ手段でもあります。

◇子どもの声に耳を傾け受け止める

- ・子どものこれまでの活動や体験を通して生まれた気づきや思いを大切にしましょう。
- ・ワークシート等にかかれた生徒の感想や考えを活用しましょう。

例えば、前時に記入した感想などを分析したり、分類したりして一人一人の考えやクラス全体の傾向を把握しておくことが大切です。

4

新たな学びを出発させるために

◇適宜,振り返る場面を設定する

- ・技術分野の学習過程は一方向に進むものではありません。「過程の評価と修正」の場面を適宜設定しましょう。

例えば、設計・計画の段階で、適切な解決策が構想できない場合は、課題の設定の段階に戻り、課題を検討させましょう。

例えば、製作の段階で問題が生じた場合は、設計・計画の段階に戻り、構想を練り直しさせましょう。

◇課題づくりの場を設定する

- ・技術分野として解決を目指す問題の範囲が、身近な生活だけでなく、産業等も含めた社会も意識させましょう。
- ・試行体験を通し、自己課題の意識を高めましょう。
- ・子ども自身による自己選択、自己決定の場面を設定しましょう。

互いの考えを伝え合い、相手の考えを受け止め、自分の考えを練り直す。

技術分野

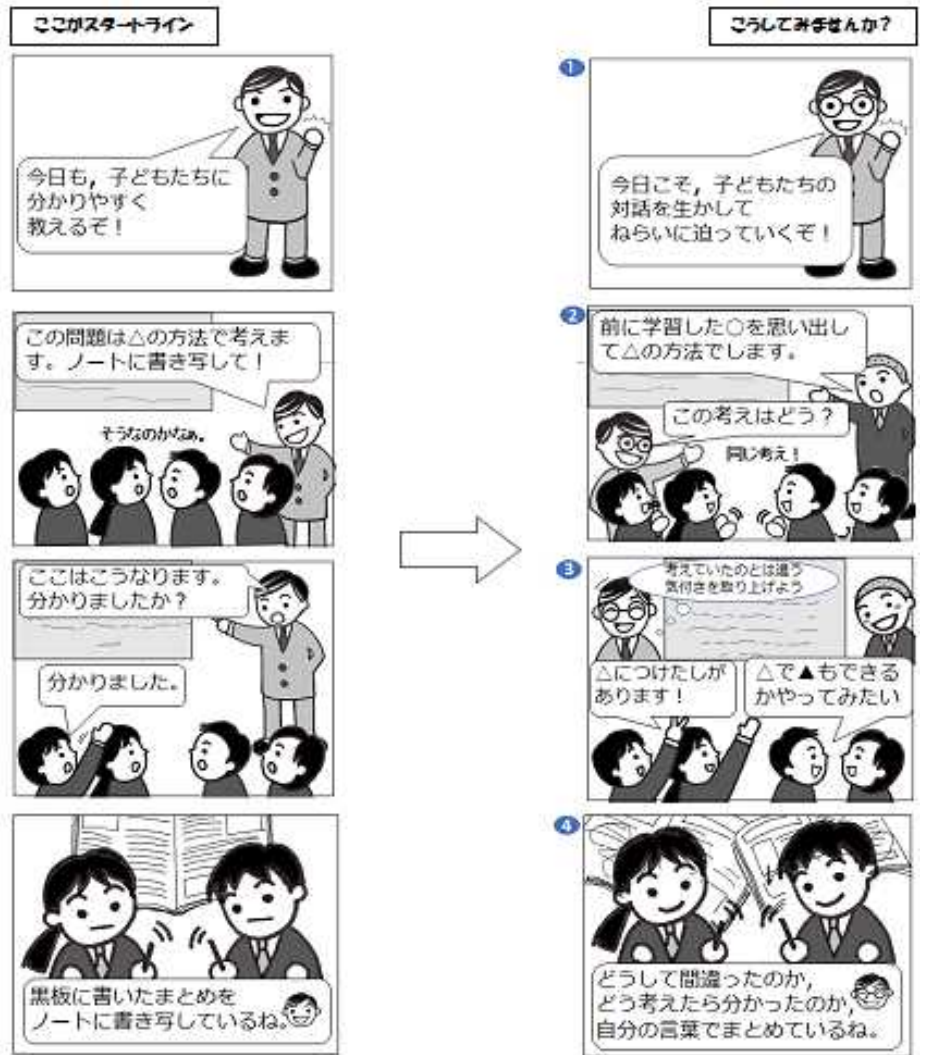
技術・家庭科

キーワード

制約条件

最適解

思考の流れの可視化



1

ねらいに迫る授業をするために

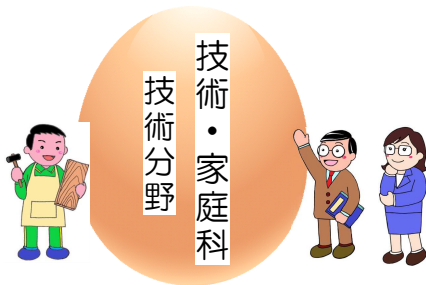
◇学習活動を吟味する

- ・生徒の発達の段階や学習のねらいを考慮し、実習、観察、実験、見学、調査、研究などの学習活動を、それぞれの特徴を生かしながら設定しましょう。
- ・個、ペア、グループなどを必要に応じて使い分けましょう。

◇効果的な学習支援を考える

- ・技能の習得状況を把握し、必要に応じて教材・教具を工夫しましょう。
- ・学びたくなる、知りたくなる、調べたくなるような学習環境をつくりましょう。

掲示資料、子どもの作品、座席配置、空間 等



2

「見方・考え方」が働くようにするために

◇これまでの学習を踏まえる

- ・学習過程「既存の技術の理解」の段階において、内容A～Dそれぞれの「技術の見方・考え方」に気付かせます。

◇多様な展開を考える

- ・課題の設定範囲を身近な生活から社会へと発達の段階に応じて広げましょう。
- ・他者と対話したり協働したりする場面を設定しましょう。

技術の在り方を考える場面では、安全性、環境負荷や経済性等の様々な制約条件の基で、最適解を求めていることに気付かせることが大切です。実習等の場面では、子どもたちの使用する材料等に制約条件を設けるなどの工夫をすることもできます。

3

気付きを生かした展開にするために

◇子どもの思考の流れに沿って展開する

- ・題材やある程度の時間のまとまりの中で、子どもの思考の流れが分かるようなワークシートを準備しましょう。
- ・三つの要素である「生活や社会を支える技術」「技術による問題の解決」「社会の発展と技術」の学習内容につながりをもたせましょう。

◇想定外の反応にも柔軟に対応する

- ・既習事項の生徒の理解度を把握しておきます。
- ・授業のねらいを常に意識しましょう。
- ・「技術の見方・考え方」や科学的な原理・法則との関わりで子どもの反応を捉えましょう。

4

問題解決における一連のプロセスを重視するために

◇子どもの試行錯誤を大切にす

- ・ペアやグループでの活動を取り入れ、子どもが多くの考えにふれ、自分の考えを広げることができるようにしましょう。
- ・生徒が構想や計画を練ったり、自分の考えをまとめたりする時間を十分確保しましょう。

◇獲得した学びをまとめる場を設定する

- ・学習過程「成果の評価」の時間を設定します。
- ・学習過程「課題の設定」、「技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画」、「課題解決に向けた製作・制作・育成」、「成果の評価」は、一方向に進めるだけでなく、生徒の学習の状況に応じて、各過程を往來するようにします。

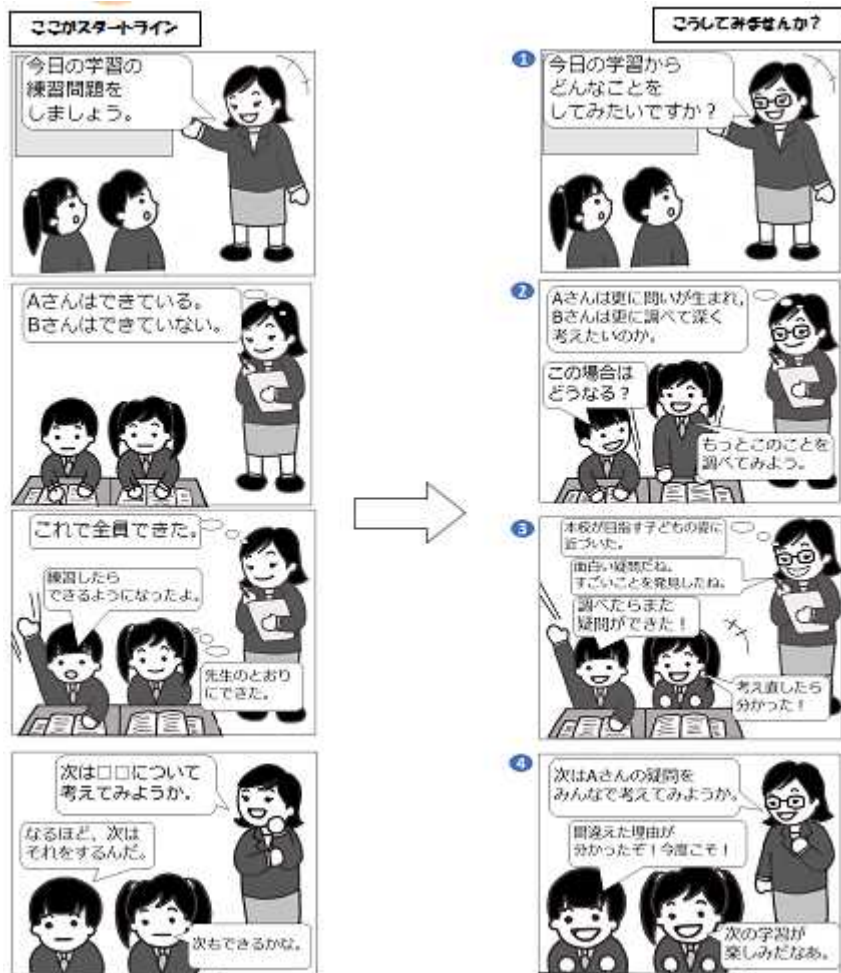
連続する学びは力へ。 新たな学びの獲得と新たな学びを創出する。

技術分野
技術・家庭科

キーワード

ワークシートの工夫

成果・課題の自覚



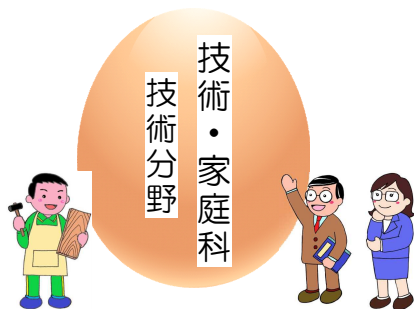
1 活用・発揮を促すために

◇学んだことが生かされる場面を設定する

- ・学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定しましょう。
- ・自分の生活が地域社会と深く関わっていることを認識したり、自分が社会に参画し貢献できる存在であることに気付いたりする活動を設定しましょう。

◇本時の振り返りから課題を引き出す

- ・これまでの学びを振り返り、自分も持っている「技術の見方・考え方」を自覚する場面を設定しましょう。
- ・ワークシートに記入した前時の感想等を、子どもたちが互いに見合う時間を設定し、子ども自身の課題意識を高めましょう。



2 学びを見取るために

◇評価方法を検討する

- ・目指す子どもの姿を明確にします。
- ・ワークシート（計画表や構想図等を含む）、レポート、ペーパーテスト、観察、実技テスト、完成作品等の多様な評価方法から、評価の観点の趣旨にふさわしい評価方法を選択します。

◇授業プランを修正する

- ・実習では進度の差に配慮した指導の工夫をしましょう。

例えば、完成見本や工程例、過去の作品、写真、映像、試行用の材料等を用意したり、ヒントカードやマニュアル等を適切に活用させたりすることが考えられます。

3 学びの実感を促すために

◇子どもの変容を取り上げる

- ・子どもが振り返りで書いた言葉を授業で取り上げましょう。
- ・ワークシートや作品等から見られる子どもの考えの変化を授業で取り上げましょう。

◇フィードバックして働き掛ける

- ・学習過程「課題の設定」、「技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画」、「課題解決に向けた製作・制作・育成」、「成果の評価」では、一方向に進めるだけでなく、子どもの学習の状況に応じて、各過程を往來するようにさせましょう。

4 新たな学びを創り出すために

◇学習全体を振り返る場面を設定する

- ・製作工程表や栽培計画表等を使い、子どもが自身の活動を振り返る場面を設定しましょう。
- ・製作工程表や作品等を子どもが互いに評価し合う場面を設定しましょう。

◇新たに学びが連続するようにする

- ・子どもたちから出てくる疑問を授業で取り上げましょう。
- ・技術の素晴らしさが伝わるような話や技術に関する豆知識等を紹介しましょう。

Akitaractive Eye

～主体的・対話的で深い学びのために～

